

史料翻刻

木下韓村日記 (十) ①

木下韓村日記研究会 (代表 島 善高)

〔表表紙、別筆〕

一八五一
 嘉永四年九月十二日より
 安政六年十二月十九日まで
 一八五九

日記

十 木下家

〔中表紙〕

〔貼札、別筆〕第十卷

〔貼札、別筆〕嘉永四、九、十二
 同、十二、二十五 三卷
 安政六、十二、十九

嘉永四年亥九月十二日晴

昨夜五鼓歸自菊池、頗疲、如例赴堂

十三日

夕直、女鶴浴澡河内、今日晚暮歸、瘡愈

十四日

如例赴堂、夜訪横井平四郎、平四郎遊上國、客月還郷

十五日

課生徒洒掃、宅内繕障紙、暮時下灸

十六日

起嘉永四辛亥九月十二日

朝夕日間會讀仍舊省筆

第三卷

夕直

如常赴堂

十七日

廿三日

文社、集于片山宅、自学堂赴之〔宮三郎〕 ○甲斐多喜次〔前、算學師役〕ヲ尋ル、片山〔宮三郎〕為知候席〔備力〕□須二郎〔備力〕□遊之節、手前門生同道有之候と申儀、問合候處、其儀無之、推量いたし候儀有之為申由申間候、片山〔宮三郎〕江かくと申ス

廿四日
赴堂、當直

十八日

如例赴堂、片山〔宮三郎〕猶多喜次江問合、片山承□之段□有之〔以下数文字破損〕八月九日江戸着之由、書至 ○高橋・入江ニ書状仕出ス、安井仲平・□崎定〔宮崎定太郎力〕□□・田代雄次郎同様〔若殿通稱〕

廿五日

郊外詩文會、集于清水寺、山口翁坐督、會後与加々山〔九郎〕・上村〔彦次郎〕・中津海登祇山〔片岡〕 ○朱陵翁不化禪師贊、十字街頭□発時、東還西往自在吹、問君按住誰家□、□是江南鷓鴣詞 ○是日、十郎〔禪村字十郎〕、北野家祭禮ニマヒル

如例赴堂

九月十九日

廿六日

廿日 若殿様御目見被為濟、御到来ニ付、去ル十七日御家老廻勤〔マツ〕」如例赴堂

如常、宮崎定太郎八月五日義人纂書序受取候趣之書状、塩谷同月十日同上ニ付、其外其身病状等之書□□□安井批評とも二差越、宮部鼎藏〔時頼軍學郎〕分相達

廿一日

廿七日

如例赴堂

如常

廿二日

廿八日

如常、亡友漆潭(備原五郎助)三回忌日二付、水津同道墓参、同役中も来ル、其外柵門生・後室等、拜啓庵二打寄、如昨年

五日
詩会受持

廿九日

如常

六日
如常、尤築瀨痛所二付、夕番代勤、

晦

如常

若殿様先月十八日 御登城、御前御元服、御一字御拝領、慶順様と奉稱、從五位下御任官、右京大夫様と奉唱候御到来有之候二付、麻上下着、御家老廻り ○徳永恒太郎快相成、塾江帰ル、礼八菊池江引取(徳水)

十月朔

山行存立候處、陰雨二付相止 ○夜中、徳永常太郎發腹痛(竊水四年)

七日

如常、赤穂義人纂書序浄写作、与塩谷甲蔵(石巻) 宮崎定太郎書(元水戸藩譯字師)

二日

不快引入 ○恒太郎持病之腹痛甚敷、部屋之様為移、福島大太郎(鞆村門人 福島亀之丞)

八日

説経、孟子晋國莫強章 ○恒太郎帰菊池(梁忠上四)

三日

出勤如常 ○徳永礼八、丑三郎同道出府仕(鞆村忠)

如常

四日

如常、昨日 右 田父、内御用、貞喜六十年之勤勞□□無(石田) (以下数字破損) 心懸能候付、御番方二被仰付 ○昨夜分病人甘キ立候

十日

詩会、秋月藩緒方春亮再遊、萩谷政次・戸原卯橘□□至(秋竹藩主、鞆村門人) (秋月藩主、鞆村門人)

十一日

如常、上村彦次郎宅・中津海平之進催合□□集会引受

十八日
當直如常

十二日

如常、中村庄右衛門案内二付、新座能見物二同役中罷越〔柳川郡代〕 ○牧園進〔柳川郡〕

十九日
講堂詩会如常

士父子之書、昨日村山謙一郎持参〔柳川藩医生・神村門人〕 ○塩谷甲蔵〔右衛門〕鍋田届之文共二
高橋當二今日仕出

廿日

夕直如常

十三日

夕番如常

廿一日

當直如常、月試罷

十四日

御寺拜詣、夕如常

廿二日

赴堂如常、

諦了公御十七回御忌御法會御執行二付、泰勝寺参拜〔第八代藩主齊悠〕

十五日

塾生・宇十郎召連、河内二遊、夜四ツ比婦、河内湯所二而磯田十郎〔編村七〕
左衛門止宿之二階申請談、酒食支度、是日夜晴如春

廿三日

赴堂如常、

世子御前髪被遊御取候御到来二付、御家老衆廻勤〔編川郡代〕

十六日

夕直如常

十七日

宅請持文会

廿四日

赴堂如常

廿五日

於法念寺郊外詩文会、早引、菊池江罷越、(同生多入長門家中 (同生高田惣庄屋後助弟)
深口謙造・岡松魯助・
渋谷官次・阿部正記同道、夜六ツ過着

付、今朝岡松江挨拶申向、尤昨日福島も出府、あいさつ罷越、此
方江も禮罷越候

廿六日

旧宅在宿、御母様御容躰、片瀬又□ニ為窺、暇日

二日
赴堂、諸生名録調

廿七日

同前、暇日

三日
同前

廿八日

朝飯後打立、夕刻帰宅、暇日

四日
同前

廿九日

出勤如常

五日
詩会、片山受持、(宮三郎 (文右衛門) 柏木暇日二付、講堂夕直

(嘉永四年)
十一月朔

(醫師)
岡松駿甫屋敷添之地子、河原会所旅宿ニ世話いたし候處、屋敷方福島
島分聞繕上、明兼相成趣ニ付、二十年限借銀四貫五百目ニ而取組候
上、手前分水津を以屋敷方之見込承合候へハ、不相皆済不申由ニ
付、早川氏江も問合候へハ、追而紙面参り、場所柄之儀ニ而出府所
之名義とも不相成極り之由申来候ニ付、其趣岡松江も申越、(磯市) 福島江
も申聞、致破談候、実ハ不案内ニ而承合、前後いたし氣之毒之事ニ

六日
赴堂如常、夜鎌田平七方江罷越
(留守居番頭免)

七日
當直如常

八日
夕直如常

九日

蒙養齋會論語始、坐堂如常

十日

赴堂後、片山(宮三郎)自舍詩會(宮三郎)罷越

十一日

講堂御用受持之段、教授局江相届 ○今日病中引入

十二日

出勤如常 ○昨日八ツ比、講堂御用、輕輩三人(栃原・内田・栗崎)之達、教授局江直ニ講堂ニ被達候ニ付、夕番(文右衛門)柏木(文右衛門)の栗崎・内田江ハ及手数、栃原江之達状、是江參候ニ付、直ニ相達、夜分迄ニ皆々御請相濟

十三日

講釋當番、説子(論語)罕首章、講堂御用三人同道相濟候而、加々山(権内)・片山(宮三郎)江打廻、卯()子句讀會有之候事

十四日

御寺參拜、赴堂、痛腹ニ付早引 ○祖父様御(十七)ヶ年御忌、菊池()令便有之

十五日

休暇、水津祭案内ニ付罷越(權太郎)

十六日

夕直

十七日

文会、片山(宮三郎)宅、生駒新太郎宅案内罷越

十八日

暇日ニ而曉七ツ前出立、菊池江罷越、五ツ比着、此日(備前)覺遊君御十七年回忌佛事相営、右暇日無之、見舞ニ直ス

十九日

在菊池

廿日

同前、桑満翁見舞(伯順)

廿一日

曉八ツ比立、朝着、夕直相勤

廿二日

赴堂如常

廿三日

同前

(嘉永四年)
十二月朔

休暇

廿四日

同前、當直、隈部左内案内罷越

○柏木轉宅(文右衛門)

二日

赴堂

廿五日

一日亭詩文会

三日

同前

廿六日

夕直

四日

同前、桑満翁(伯題)御擬作百石被 下置、年八十五

廿七日

赴堂、今日死刑拾六人

五日

(權四)加々山宅詩会請持

廿八日

講釋當點、寄合片山宅(喜三郎)

六日

講堂文会如常

廿九日

夕直如常

七日

當直如常

晦日

如常

八日

夕直如常

九日 講藝齋会、赴堂如常

十日 加々山宅詩文会、打混

十一日 赴堂如常、(元左衛門、元時齋調等) 吉山寿安十七回忌案内二付罷越

十二日 同前、(門生入留米澤陪臣加藤伝兵衛性) 加藤傳吾大婦、(禮科) 宇十郎と塾生送之郊外

十三日 同夕直、總教衆講後、書生講釈三座被聞候上、富田熊雄名指二而左傳臨時講被申付、同人十五歳、(正佐義公三志) 講祁奚請老章

御内意之覚 半紙折懸
私儀今度 若殿様御名之唱奉憚、木下真太郎と改名仕度奉存候、此段可□様奉頼候、以上

月 姓名
差出 中折々懸
私儀、木下真太郎と改名仕度奉願候、以上
嘉永四年十二月 木下宇太郎 [花押]

(奉行) 佐田吉左衛門殿
(奉行) 真野源之助 殿
(奉行) 上野 十平 殿
口上之覚 半紙折懸

私悻木下宇十郎儀 若殿様御名之唱奉憚、木下信十郎シシと改名仕可申候、此段御達仕候、以上

月 姓名
十四日

御連枝様御二方講堂江御出教候間、講釈一座被成御聞、句讀齋江も御出之事、(兼内) 加々山輪點二而論語賢々之章を講、前記願書、今日加々山今差出

十五日 休暇

十六日 夕直如常

十七日 赴堂

十八日

同

十九日

同、年末調例之通

廿日

同、右同断

廿一日

在宿

廿二日

在宿

廿三日

御寺参拜、所々寒見舞

廿四日

在宿、惣出、七ツ過分(文右衛門)柏木宅集会

廿五日

右同

廿六日

右同

廿七日

右同

廿八日

右同

廿九日

小盡

嘉永五年壬子正月朔旦

御禮出仕、八ツ過濟

回勤

志水新丞(用人)・木村次郎左衛門(用人)・元田三左衛門(家繁親)・木村得太郎(時曾調導)・加々山権

内(目付)・池部敬太(英助)・吉山忌中(天文方配頭)・荒木万藏(美徳十挺頭)・志方司馬助(若殿目付)・山戸庄右衛門(番方配頭)・

清成武右衛門(高瀬町奉行免)・近藤先生(免右殿目付)・筑山又兵衛(番方配頭)・橋谷市之助(番方配頭)・福田十郎右衛門(免右殿目付)・高瀬寿平(三番組頭)・道家忌中(番方)・上田忠左衛門(免右殿目付)・新美一左衛門(美徳十挺頭)・辛川孫

門(學校目付)・河部駿太郎(留守中)・高本敬太郎(小姓配頭)・稲津久兵衛(三番組頭)・辛嶋多喜次(番方)・荻角兵

衛(句読脚)・御寺(留守)・井口呈助(中)・堀七郎兵衛(小姓配頭)・沢村□□右衛門(用人)・堀丹右衛門(番方)・

頼母殿(有吉)・佐渡殿(兵衛)・監物殿(藏人)・溝口殿(免那代)・財津直人(番方)・片山忌中(番方)・鎌田左一

郎(作事所目付)・松野七左衛門(番方)・佐々布左内(番方)・林新九郎(番方)・友岡(九郎右衛門家老)・平野殿(番方)・

下津・大木殿(久馬)

二日

松岡小左衛門(家醫)・松原傳右衛門(時習助)・山田敬次(時習助)・嘉悦一太郎(時習助)・山口仁九郎(奉行)・上野十平(小物方根取)・明石三郎七(中村忍斎妻の兄)・野々口金左衛門(学校目付)・富岡三郎右衛門(元奉行)・中村庄右衛門(奉行)・上村彦次郎(家醫)・宇野市郎右衛門(番方二百石)・大野傳兵衛(岩男徳)・之助(用人)・右田庄之助(家醫)・小林又蔵(若殿近衛免)・宗幾久馬(権左衛門)・國友定雄(奉行)・河喜多角之助(備前十五振頭)・永田傳九郎(備前十五振頭)・松村十之進(天文方)・安田市助(番方)・大里八郎次(笠格兵)・杉原重助(半殿附目付)・三苦惣左衛門(菊池今村高士)・下河邊次郎太郎(番方)・浅香彦四郎(遠山)・強彦(半殿附目付)・船津三右衛門(郡代)・蒲池太郎八(宇右衛門)・沢村殿(宇右衛門)・山崎平之助(番方)・白木大助(奉行)・早川十郎兵衛(奉行)・大里隼之助(奉行)・沼川敬内(中山)・中山佐一右衛門(作事目付)・山内平治(助定役)・山代藤市(所領取)・片岡忠右衛門(中山)・町野・松原惟一(中小姓)・米村平之允(鉢術)・江口次郎(所々目付)・中戻り(二九)・善正寺(医師)・草野惟貞(丸)・草野平之允(丸)・富田宗栗(再春船司)・池松大八(奉行)・田中権作(若殿近衛免)・葉室慎助(野村傳)・野村傳左衛門(堀内)・久左衛門(時習助)・築瀬騏兵衛(奉行)・御寺(奉行)・本山和平(番方)・平川貞四郎(若殿近衛免)・國友式右衛門(若殿附目付)・北川藤作(若殿近衛免)・益田十郎右衛門(半殿附目付)・明石謙太郎(半殿附目付)・太田十郎右衛門(若殿近衛免)・高田十兵衛(鉄砲)・久野勘十郎(鉄砲)・尾崎十次郎(奉行)・中松祐作(奉行)・廣田久右衛門(奉行)・池田三八(目付)・佐久間角助(中小)・吉田潤之助(奉行)・真野源之助(奉行)・山口三五左衛門(奉行)・飯田熊之助(奉行)・岩崎雄熊(奉行)・井上勝蔵(医)・尾形謙受(津熊)・水津熊太郎(津熊)・高橋・佐田吉左衛門(奉行)・中村助左衛門(馬方)・合志多左衛門(渡邊)・善右衛門(治部)・久保田権十郎(奉行)・生駒新太郎(奉行)・三宅新太郎(奉行)・大城家(奉行)・岡松(郡代)・井上久之允(奉行)・山下稻兵衛(奉行)・南恒庵(奉行)・水足七郎助(奉行)

三日

妹尾軍十郎(若殿)・松原勘助(奉行)・益田源七(奉行)・門岡忠蔵(奉行)・深水宗古(奉行)・沢村宮門(奉行)・入江傳右衛門(奉行)・友成津内(奉行)・柏木(奉行)・隈部式右衛門(奉行)・木原彦之進(奉行)・中村敬太郎(奉行)・鎌田左内(奉行)・横井佐平太(奉行)・田中元翼(奉行)・片山(奉行)・平川駿太(奉行)・牧口之助(奉行)・坂梨潤左衛門(奉行)・石井茂助(奉行)・牧市之允(奉行)・黄玄朴(奉行)・内藤尉右衛門(奉行)・寺嶋宗沢(奉行)・石光敬助(奉行)・古庄八太(奉行)・大浦範之助(奉行)・小野元部(奉行)・坂本彦兵衛(奉行)・野尻正蔵(奉行)・坂田豊(奉行)・山中平左衛門(奉行)・木村太郎次(奉行)・衛藤又蔵(奉行)

四日

初出、四ツ前揃、惣教衆年詞相濟候上、京町方角(小)永松喜平(番方)・浅香彦四郎(番方)・白木大助(番方)・磯田十郎左衛門廻勤(番方)

五日

北行用意等二而在宿

六日

朝早起、信十郎連北行、向坂村吉右衛門宅二而昼飯、途中雪降二相成、吉右衛門馬二信十郎を乗、七ツ比、千田村隈部徳七宅二着、止宿(尾)

七日

千田今五ツ比發、西方江立寄、暮比旧家江着

八日

御墓參、村中年禮

九日

正官寺初所々年禮

十日

休息

十一日

信十郎(釋科)滯留為致置、自身已(同生、河原水邊庄屋之充也)福島大太郎同道歸府、薄暮着

十二日

八ッ過、近藤先生案内二付(英助)罷越(時習館專)

當年異國船渡之節之受持、片山喜三郎江被(片山) 仰付、其元と三月中引替可被申段、今日喜三郎江申渡有之候、此段可及達旨、從御奉行所御達有之候条、可被奉得其意候、以上

正月十一日

後 上野十平(奉行)

真野源之助(奉行)

前 佐田吉左衛門(奉行)

木下宇太郎殿

右、昨日御達ニ可相成處、在郷江罷越居候ニ付、水津(熊本郡)分取計、今日同人分相渡候、尤取計置之外、御請ニ及不申候

十三日

御家老衆挨拶廿四人

四ッ前出勤、開講築瀬驛兵衛、子畏於匡章、講後賜酒如例、七ッ過相濟、中村庄右衛門方江柏屋・永屋同道罷越、暮過右兩人私宅江立寄、年杯、此夜木下初太郎・三村傳之助・福島龜之允・衛藤七弥太至、丑三郎出府、高橋弥四郎・大城太郎右衛門・石光文平江年頭状仕出(御村岳)

〔十四日欠〕

十五日

初出、八ッ引、道家角左衛門年礼、近藤先生禮、江村萬春返礼打廻り、加々山江立寄引取、轉升一宮左七郎・太田末雄・中村四郎助受持、夕方、宅寓生狩野・大矢野・津崎・草野・徳永・成田・福島・百次郎・金子乙、年杯(内牧庄屋坂彦右衛門)

十六日

赴堂

十七日

宅文會、小太郎・徳太郎同至(御村岳)

十八日

赴堂

十九日

赴堂、〔備材也〕小太郎・〔備材也〕德太郎共帰、〔徳也〕徳省于菊池

廿日

夕番如常、腹痛二付、夜讀休

廿一日

當直如常、塾中會讀、去冬論語卒業、今春當夜孟子開卷

廿二日

赴堂如常、為萩谷・〔雅次〕戸原二生作〔卯橋〕字〔戸原生名字説、釋村遺稿拾遺下〕、緒方春亮迄仕出

廿三日

御寺參詣、赴堂

廿四日

當直如常

廿五日

赴堂如常 ○夜分石光敬助菊池〔門生〕の一旦帰り、橿原七右衛門、河原会所走番次平〔石光〕今受無禮候儀二付、處置為問合罷越、夜話二及、敬助明

日今猶又菊池江罷越候筈

廿六日

夕番如常

廿七日

御飛脚立二付、〔二章〕佐藤翁・〔通齋、佐藤、齋儀〕河田八之助・〔息軒〕安井仲平・〔岩陰〕塩谷甲蔵・〔岩陰並置〕田代雄次郎・〔若殿〕入江傳右衛門・〔若殿前目付〕橋谷市之助、年禮状仕出、尤辰ノ口詰江八先便仕出候事、赴堂如並

廿八日

赴堂如並、〔太郎右衛門〕大城御袋病氣重有之

廿九日

同前

卅日

同前、〔太郎右衛門〕大城方夜伽ス、〔格次、門生、平藏、門生〕大矢野・〔平藏、門生〕草野、菊池江遣ス、〔門生、諸役人段〕栃原助之進母出府

二月朔日

昼夜大城方江罷越

二日

朝、大城御袋死去、今日暇日仕、諸事世話いたし候事

三日

赴堂如常

四日

赴堂早引、大城方葬式、(太郎右衛門) 昼八ツ時出棺、柿原村手山内ニ葬ル、夜六ツ過帰宅

五日

詩会、片山受持之處、女子出生引入候而、(三郎) 加々山江頼越候ニ付罷越

六日

赴堂出懸、(龜藏、中村加善妻の兄) 上村彦次郎内話

七日

風邪氣味ニ付、暇日を以薬用仕、(敬助) 石光・(助之進) 析原罷帰、世話筋聞取、夜大作至、塾中名札出来

八日

風邪引入、講釈ハ次點築瀬(築瀬)江頼越

九日

出勤(元時習館調導) ○河部仙吾先生七ヶ年回忌ニ付、駿太郎(前存嫡子、学校目付)今噂有之、同役之内築瀬・(頼兵衛) 加々山・(文右衛門) 柏木同道罷越、日暮比引取

十日

詩会、(権内) 加々山受持、(三郎) 片山産穢引入ニ付、不及赴館、直江罷越、昨九日、(前軒、鞆村從弟) 城野弥三次於御奉行所御用有之、兼々心得宜敷、質素儉約相守、貯置候粟を以難渋之者等江救差出、奇特之至ニ付、目録之通被下置之

作御紋麻上下一具 同小袖一

十一日

出勤(鞆村弟) ○小太郎儀御用有之候間、今日四ツ時分御郡代間江丑三郎同道出候様、御達有之候ニ付、昨夜兩人一同罷出、今日左之通(鞆村也) 学問心懸能、大勢之門弟教導方手厚行届、取柄之為合ニ相成ニ付、御郡代直觸被 仰付之

十二日

出勤、朝小太郎共帰ル ○(龜藏、中村加善妻の兄) 上村彦次郎斷ニ付、咄合有之、尤昨日彦次郎母ニ手前今咄向候儀有之、今朝中村加一郎(加善の子、嘉一郎)を以返答申来、其段講堂ニも咄合候事

十三日

講釋、當點、鳳鳥不至、子見齊衰者二章ヲ説ク ○松岡八左衛門看
病下り内着 ○高橋弥四郎書至

十四日

朝上村ヨリ参呉候様申越候ニ付對話、出勤如常、退後御寺参詣

十五日

終日留守番

十六日

赴堂如常

十七日

加々山宅文会

十八日

講釈、當點、雪宮一章ヲ説 ○上村彦次郎白金詰として、用意
濟次第早々出府仕候様被 仰付、
若殿様御會讀等申上候様被 仰付、詰申御近習御次支配頭之支配へ
被仰付旨、今日御達ニ相成候

十九日

講堂詩会如常

廿日

夕直如常、溝口總教江出、横卷之文字遣ス

廿一日

出勤如常

廿二日

右同 ○去冬奉願置改名ニ付、左之通
其元儀木下真太郎と改名願之書付達、
尊聴候処、願之通被
仰出候条、可被奉得其意候、以上

二月廿二日 佐田吉左衛門

真野源之助

右ニ付、佐田方江御請ニ罷越

廿三日

夕番、今日講後頼母殿・藏人殿・右衛殿被相滞、書生講釈回座
被承候事

廿四日

上館如常

廿五日

詩文會清水寺、夕方上村彦次郎案内、同役中罷越(彌次中村加善美の子)

廿六日

御母様為御見舞相届、菊池江罷越、尤徳太郎同道(彌次)

廿七日

在郷

廿八日

右同

廿九日

右同

晦日

婦府

ノ五日舊所、尤根取江ハ四日と相届候事

(嘉永五年)
閏二月朔日

(彌次中村加善美の子)
上村彦次郎離杯、一日亭江出浮

同二日

赴堂如常

三日

右同、丑三郎家内里方江差返候趣、小太郎書俱至(彌次)

四日

右同

五日

詩會、片山請持(宮三郎) ○夕方月並之集會、於自宅相勤、尤不時申談有之候事

六日

前記丑三郎家内之事ニ付、旧里婦省、暮比着仕候事(彌次)

七日

在旧家、徳永禮八相招、嘶合(彌次妹寿喜の夫)

八日

婦府可仕打立居候處、千田分道具受取人馬差越候ニ付、以自分紙面先押へ置候外ニ、小太郎塾中ニ紛失之もの有之、為世話逗留

九日

朝より馬二乗帰府、八ッ比着

同十六日

右四日為旧里御見舞届参候、尤根取江届二八十日迄と仕候、前
義一日過いたし居候ニ付、此節不足立用たるべき事

如常

十日

同十七日

赴堂後、片山宅詩会罷越、夜逆〔熱カ〕ツヨシ、病頭痛

片山文会受持、講堂ヨリ罷越

同十八日

十一日

如常

赴堂、頭痛ニ付早引、夜休讀

同十九日

同十二日

赴堂如常、明日〔鹽崎・中村加善妻の宅〕上村彦次郎出立ニ付、夜分罷越、中村・宇野宅江

同役中加・柏申談、八ッ後發星山看花、平野霞幽居を訪

も酔過

同廿日

如常夕番

同十三日

夕番、彦次郎〔上村〕四ッ半比出立、竹部迄見立

同廿一日

如常當番

同十四日

御寺参拝、赴堂

同廿二日

如常赴堂

同十五日

休暇、訪町野圍棋

同廿三日

右同斷

同廿四日

如常當番

同廿五日

惣教衆疑問等認候二付、當月詩文合會休

同廿六日

如常、近藤信之助家出仕候様子

同廿七日

如常、小太郎出府、千田再縁之儀、(備前)礼八當廿日比罷越、(徳七)徳七返答ニ
彼方今猶追而返答可仕趣ニ候處、(徳水)礼八見込ニハ、たとへ徳七承引い
たし候とも、向々キにて口込ニ而世話相断候由、御母様も再縁ハ
好ニ而無之方ニ相決候二付、破談可仕趣申聞候故、猶存寄之趣、
(鞆村)小太郎迄申含遣候

同廿八日

如常、(雜内)加々山宅集會

同廿九日

是月小尽

(寛永五年)
三月朔日

(鞆村)丑三郎出府、迎も再縁難仕趣、重々申聞候二付、再縁取計徳七江断
遣候紙面認、相渡申候

同二日

如常

三日

佳節

四日

(鞆村)丑三郎出府、罪人才料いたし候、出勤中途不申候

五日

詩會受持

六日

如常、今日おたち、道具為持遣候様子、跡以申来

七日

如常當直

八日

講釈、當點、(孟子告子上)説孟子罷、(多茂)家内・塾生相連、水前寺江遊行、御茶屋内

を拝見、江津迄歩行

如常、徳〔譯村忠〕太郎來宿

九日

如常赴堂 ○今晚、隣松岡八左衛門母死去

十四日

如常

十日

詩会、宅受持、柏木相見信之助事〔近藤〕ニ近藤先生〔英助〕分頼有之、夕方彼方江打寄、猶加々山宅江罷越、夜分八ツ比引取

十五日

休暇、塾生中私宅文會始、尤月ニ一次、是日ヲ定候事

十一日

朝、三宅九郎兵衛、此間阿菰二男出席ニ付懸合置候末被參 ○
足助惣右衛門縁家之者、恐傷人之事ニ付咄合 ○例刻越堂、尤大宮司殿・九郎右衛門殿、供ニ滞留ニ相成居候ニ付、先達而免被贈候礼ニ罷越、上堂之上、信之助様子相□候、右ハ先月廿六日家出、廿七日三池江着、廿九日三池發足、當月三日筑前黒崎江着いたし、同六日之認之状、今朝甲斐多喜次江届、尤渡海之心組ニ候而、是今遠方ニ相成儀ニ付、宿元之様子承り度、夫迄ハ黒崎ニ逗留仕候との儀也、因而縁家中町橋太・三池弥七郎其外人召連、今日分罷越候

如常

十六日

宅文會受持

十八日

如常赴堂

十九日

講堂詩会如常、尤朝之内、近藤翁見舞〔英助〕

十二日

如常

廿日

如常夕直、お春〔譯村忠〕大病申來候段、丑三郎分紙面差越候ニ付、七ツ下り分千田之様罷越、三曲之手前ニて近藤信之助乗物ニて罷歸候

十三日

二引逢、五ツ比千田江着、病人今日ヨリハ漸々甘キ候方

廿一日

千田逗留

廿二日

朝打立、高嶋野中宗春江立寄、(御目見醫師 門生宗春之) 枋原助之進内輪同姓七右衛門取引之儀、同人并野中太郎右衛門江相頼置候、尤石光敬助も罷越居、(枋原) 助之進母一同、野中宅江罷越候、八ツ比西寺江立寄、夕方旧里江着

廿三日

旧里江在

廿四日

同前、千田江人ヲ遣、病人相尋候處、不相替甘キ候方申来

廿五日

右同前、福島列言行録會始ル、於小太郎打寄(鞆村迄)

右廿日分今日迄日数五日、為舊里御見舞願ト而参り候

廿六日

早朝發足、夕番出

廿七日

赴堂、惣教衆詩文題、諸生認相濟清見

廿八日

惠良豊三郎講堂出席、追々伺置候通ニ別席を授ル事 ○異國船渡来(同孫二男) 之節之御手當請持被 仰付置候處、今日片山喜三郎(時青郎調憑) と引替申候、依之被渡置候小荷駄連人差紙式枚返達仕候との□(御カ) 覺書を以、喜三郎同道、御役所江罷出、学校方根取江逢、打返候

廿九日

赴堂

晦

同前

四月朔(嘉永五年)

在宿

同二日

赴堂

同三日

赴堂

同四日

赴堂、(門生)栃原助之進家内引出打立之事二付、(敬助)石光列、(熊本)水津江打寄

同十二日

同前、(宮三郎)寄合片山宅

同五日

詩会、(御村子)信十郎、山崎某江讀書入門為致候

同十三日

講釋 ○御母様御足本不常段、(御村弟)小太郎分申越

同六日

赴堂如常、無文会

同十四日

帰省奉願、未明分罷越、昼過着、(御村弟)丑三郎後妻縁談、思召通二内決仕、(御村妹寿忠の夫)徳永禮八江為相談申遣候得共、不在二而不能越

同前

同十五日

同前

同八日

同九日

講藝齋会、其外常之通

同十日

詩会、(宮三郎)片山請持

同十一日

常之通

居候

前記二付、(御村弟)小太郎同道、(礼八)徳永江参候筈二而北宮迄参候處、(徳水)礼八参り懸り、於社内申談、(御村弟)小太郎ハ直二邊田之様罷越、自身礼八同道、旧里江罷帰、(御村弟)小太郎宅ニ於而書生臨講□坐承之、(平山)源作・(城野)弥三次参候二付、相伴本宅之様罷越候、尤九ツ半時二而も有之候哉、御母様茶之間二御打臥被成候二付相伺候へハ、御半身不随、御言舌不被為叶、全御中氣と相見へ候、早速佛間之様御直し、早打春登相迎、(筑紫)引續(伯耆)桑満翁江弥三次罷越呉、熊本江政吉差立、(桑満)町野招傳仕筈二而、宿元二も其趣申越、(桑満)南關・千田江人立、町方も同様、(御村弟)小太郎江ハ塾生二夕連走り、無程罷帰、(桑満)伯順老早速来診、中風之軽症と申事二有之候、御薬御食一向二御受無之候、夜六ツ過分御嘔吐起り、夜中二都合九度御コミ出候而、甚以御氣遣申上候、(筑紫)恒齋も見へ候、一馬も詰

十六日

朝御同変、五ツ時徳太郎走り付、此日御コミ三度、御薬り一日二半貼二不過、少し上候へハ御振動ノコミ起り候間、何分不被上候、此夜五ツ比少し御乾燥之氣味有之、其餘ハ御同変、御コミ大分間遠ニ相成候、此日昼過、町野至、別段之見込□□

十七日

御コミ一度、少し宛御静ニ被為在、有時而箸一ツも湯ノ子被召上候
 ○去ル十五日、小太郎邊田江罷越候得共、淡路居申候得共、丑三郎後妻相談可仕、相手坂本擁助も回村ニ而今明日迄ハ不在ニ付、同人帰候上ニ而淡路ノ相談可仕との咄合ニ而引取、途中御大病承り帰候事ニ候、然處此一事ハ別段御心ニ被為懸候儀ニ付、此上ハ何レ之道ニも極至急ニ相決、御存意通御聞セ申度段、礼八江も及相談、礼八明早朝今直ニ擁助江罷越、格別之相談可仕と相決、翌十六日罷越、藤井十内相伴、是非ニ貫受、直ニ為御見舞、擁助娘參候様申談、罷歸候而其翌十七日ハ日柄不宜、十八日ニ罷越可申ニ相成候事、是日熊本家内とも罷越

十八日

御同変之内、少し宛御甘キ之様ニ被存候、町野今朝迄逗留、葉□
 夫々手當いたし、今朝引取、跡ハ桑満家・春登相談候事、今日ともハ御コミハとんと相止候、昼過丑三郎後妻名おとり、藤井十内・礼八同道罷越、直ニ御對面申サセ候處、慥ニ御返事被為在、御安心之躰

相違無之、宇一差付分能かつき候儀申上候へハ、御笑見へ申候

十九日

御同変、少宛御薬も下り、御食も数箸御受被成候故、皆々半安心仕候

廿日

七ツ比迄御同変、家中初而笑聲いたし候程ニ有之候處、□ツ半比、急ニ被為發、御眼つり申候ニ付、早打を以恒齋・一馬申請、暮比御灸も度々上候得共無御効、暮六ツ比被遊御終焉

廿一日

暮比御入棺、其前ニお春も病中罷越候

廿二日

八ツ過御葬式、始終相曇り候へとも、無障被為濟候、忌懸り今又姪・姪婿・継孫等都而御目下之排行数候へハ、百六人有之、此日会葬二百位、都而膳立六百計いたし候、熊本分門人十餘人參り候

廿三日

廿四日

壇築親類縁者二十人計 ○是日熊本分門人十餘人罷越

廿五日
門人引取

廿六日

廿七日

廿八日

廿九日

家内召連、熊本江引取、留守之儀ハ是迄塾生相守り居事

卅日

五月朔日

至十六日在家、此間吊客左之通り

- 〔医療野味役玄朴〕○〔元奉行源之助〕○〔郡代加善子〕○〔元時習館助教謙助子〕○〔鶴崎代物部一男〕
- 黃元朴・真野豊彦・中村嘉一郎・池邊軍次・岩崎男熊・山田敬次・笠格兵衛・水津熊太郎・原田十次郎・木村得太郎・堀内久左衛門・寺尾左助・山崎平之助・田中權作・廣吉嘉三郎・生駒新太郎・吉山次郎九郎・高瀬善兵衛・鎌田左内・松村千左衛門・内藤宗民・永田三郎兵衛・岡松辰吾・浅井新九郎・一宮佐七郎・平山磐彦・岩崎三熊・田代鋨三郎・野々口謙助・太田次郎太郎・田尻彦太郎・牛嶋五二郎・松原傳次・畑尾章左衛門・磯谷

太左衛門・鎌田助郎・平川貞四郎・後藤又之允・宇野猛熊・國友半右衛門・國友式右衛門・近藤市之允・片岡忠右衛門・溝口殿使者・篠原巳三郎・荒瀬市左衛門・三宅新太郎・武居得三郎・西沢一太郎・小堀次郎助・佐藤熊三郎・木庭藤之助・池田三八・古庄常太郎・得丸玄甫・山下平助・監物殿使・中津海平之進・吉田武八郎・尾崎十次郎・安場一平・嘉悦市太郎・津口哲之助・大岩又左衛門・柏木文右衛門・木村男吏・福岡榮十郎・松岡八左衛門・上野

武源太・江口次郎・水足七郎助・松原傳右衛門・佐野亥一郎・衛藤源三・黑瀬栄太郎・安田九萬喜・赤星三郎右衛門・松原貞之允・村上久太郎・片山喜三郎・佐々布左内・永野徳之進・笠岩太郎・衛藤藏・伊東大作・草野専次・水足左助・林次郎八・今村乙五郎・池松大八・友成津内・宇野武一郎・林新九郎・池上玄理・隈部式右衛門・甲野角馬・山口仁九郎・加々山権内・荻角兵衛・新美傳之助・一左衛門・山中新兵衛・水津家内・町野家内・築瀬騏兵衛・藤崎龜之助・財満八太郎・沢村修藏・内田貞八・矢津源五郎・富田熊男・桑木才右衛門・寺田丈右衛門・野々口金左衛門・宇野市郎右衛門・岡松騏三郎・荒木加兵衛・本田弥次郎・箕田丈之助・中村敬太郎・永田傳九郎・男成作之進・片岡左一郎・熊谷市郎右衛門・堀大助・中山佐一右衛門・石川源八郎・石井茂助・山下彦助・清原小左衛門・益田源七・飯田熊之助・坂田豊・妹尾又左衛門・加来元恭・平野哲次・福田十郎左衛門・三井大平・粟津忠太郎・森井惣四郎・山内平治・山内忠次郎・神足十郎助・

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

〔門生〕

十二日
出勤、右同

十三日

講釋、右同 ○御奉公附認直前記書入之通ニ候、前記ハ学校相止候
日を差引、御目附江も相達候趣、同役片山(喜三郎)分引□書遣候ニ付、其儘
ニ相認候得共、御奉公附ハ右休日差引いたし候ものニ無御坐候、根
取分申出候間、改書差出申候

十四日

御寺拜詣、返礼廻勤、夜高橋(永四郎)留守江罷越

十五日

例暇、終日在宿、坂梨才(坂梨彦三郎)右衛門至、灸治中、圍棋 ○来ル十八日、
時習館江為
入云云之段、山口助教分通達有之候ニ付夜二入、柏木江相談、出方(文右衛門)
諸生助番等申遣ス

十六日

講堂御繕ニ付、一日休

十七日

出勤、諸事明日之都合申談候、尤手前定日講積点前二而、明日

御前講可仕ニ付、少々腹内も不和ニ付、文会江ハ出席不仕、引取

十八日

朝五ツ前出勤、如例句讀齋江相揃、諸生出方、着到等如例、御達通
正五ツ半之御供揃ニ而、御注進分坐付、如例繰出、講者ハ先函丈中
席東之臺南端ニ扣へ、見臺ハ西南之隅江向ヒ有之、御居間江被遊
御入候節、脇差を脱、函丈外之御畳ニ差起、其儘相扣居、

御着座ニ而御唐紙あかり候節平伏仕居、其分膝行、西南西 御座之
間近ク候間、随分見臺ヲ引放シ候様いたし、此日講次ヲ以雖(五子公孫半上)智惠
之段分終章迄、説之畢而已前之座江退キ平伏、御唐紙せまり候上、
後口ニ詰ニ相成候惣教衆江毎之通御時宜いたし、先句讀之様引取、
順々を以諸生引取候上、説經之諸生、今日ハ沢村尉助・磯谷多左衛
門・篠原巳三郎相揃へ、習書生等習札相濟候上、諸生座付同役分取
計今日申談、一行ニ繰出、東西席ニ坐着為致候、尤脇差ハ皆複道ニ
為抜候、輕輩ハ毎之處也、東入側之出役相濟、御唐紙明かり候而直
ニ説經之書生繰出ス、右三座相濟、繰出之席ハ句讀師ニ譲り、御入
側江罷出列坐ス、句とふ生臨讀一部讀背誦、習書生席書、夫々相
濟、九ツ前被有
御帰座候事

十九日

詩会如常 ○山崎平之助 若殿様御近習當分被仰付、今日歎ニ參ル

廿日

如常、風之氣有之、夕夜二懸吹増、物を傷ルニ至り候

廿八日

如常、山崎平之助御近習當分被仰付案内二付、同役中夕方より罷越

廿一日

如常、風之氣強、昨日之北風、今日ハ西南江吹廻し、夕方吹止

廿九日

如常、是月小尽、山口先生同道、柿原山中先師之墓ニ謁ス

廿二日

如常、丑三郎出府

七月朔

在宿、夕方井上久之允江參ル、大城・山内等共圍棋

廿三日

如常、丑三郎引取

二日

如常

廿四日

御手入二付、講堂やむ

三日

如常、是夜大城多十郎妻歿

廿五日

春松閣文會、宇野・井口・道家・増田等人々も參ル、是日熱甚矣

四日

如常

廿六日

夕番

五日

詩会宅請持、夕方大城方葬式、養徳寺ニ會ス ○真野氏ニ至ル

廿七日

如常、大城先師十七回忌

六日

講堂文會 ○栃原五郎助拝借殘之綱鑑・東海道名所圖繪吟味二付、

物書懸合

七日

佳節、在宿

八日

夕番

九日

如常、作与岡松辰吾書、〔兼谷〕戸原卯橘〔門生、秋月藩士〕・猪股才八書、並至

十日

例詩会差止メ、昨今年轉升之面々迄出方致候筈ニ申談、今日於宅受持

十一日

〔元時曾館調導〕枋原五郎助拜借完上残之御次本二部之内、名所繪圖〔ママ〕ハ教授局ニ有之、〔從前、高野の書院名〕愛日楼之御印、弥以御次本ニ相違無之由、浦傳左衛門〔彌村弟〕分御近習御書物懸江懸合、右之通ニ付、先右一部ハ相濟 ○小太郎〔高田〕・謙太出府、止宿

十二日

如常

十三日

夕番後信十郎〔彌村弟〕召連、立田山墓所見繕、尤助之進〔船原、門生〕其外も慕參いたす、同道

十四日

夕方兩御寺參拜

十五日

在宿

十六日

夕番

十七日

文會宅請持、暮比〔名行館門〕分柏木・加々山〔權内〕同乘上田生舟看月、至石塘

十八日

如常、加々山〔權内〕・柏木〔名行館門〕・友成申合、高橋〔嘉永元年時曾館會談連〕弥平船二乘、高名橋迄廻ル

十九日

如常

廿日

夕番、如常

廿一日

如常

廿二日

同前

廿三日

同前

廿四日

同前

廿五日

於臨流庵詩文會
(妙解寺境内)

廿六日

夕直

廿七日

如常

廿八日

當直

廿九日

早引、菊池江罷越、暮比村田二着、五ッ比旧里江着

晦

在旧里、是日暇日

(嘉永五年)
八月朔

先妣一百日二値、与諸弟掃除墳塋、夜福龜高謙等至
(福島縣之志)(高山康太)

二日

訪桑滿翁、近邊縁家打廻り、城野叔母様中風格別ニ無之間、中之歩
(伯順)
行ハ能出来申候、帰り懸右田次郎兵衛吊儀、福龜・平山ヲ尋、風邪
(福島縣之志)
(源世)

塩梅二付、直ニ引取、是日暇日

三日

感冒、服薬、在田里、是日暇日

四日

早々帰城出勤可仕之處、風氣直リ不申候ニ付、政吉迄差返し、病中
引入儀、同役江頼越、是日打臥、在旧里、是日病中

八月五日

在旧里、是日病中

六日

在旧家、風邪氣漸々宜敷相成、是日藤田河原火術相催、暮方河原向
迄罷越見物、是日病中、是日学校 御入被為有候

七日

風邪漸々解熱、(論材弟)丑三郎同道、近所迄出浮、是日病中

八日

帰府、竹迫通り、七ツ比着、久旱塵埃甚、是日病中

九日

出勤、如常

十日

詩会、(室三郎)片山請持

十一日

如常

十二日

如常

十三日

講釈、當点、(論語)郷黨篇内齊有明衣以下、至不及乱ヲ講ス

十四日

雨、妙解寺参拜欠、赴堂如常、纔覚感冒

十五日

御祭禮、晴、(論材子)信十郎等夕随兵見物罷越、在宿中、古簡吟味、是夜無

月

十六日

赴堂如常

十七日

宅文會、(権内)加々山請持、引取後京町方角打廻り、(合志郡代)蒲池太郎八江暮迄對

酌

十八日

直講、(孟子)公孫丑上 誠淫邪遁一段

十九日

詩会如常

廿日

赴堂如常

廿一日

當直、夕方平川貞四郎宅案内二付、同役・世話役罷越、夜雨

廿二日

如常、午後北風強、西二回り、暫吹強り、暮歇

廿三日

御寺参拝、赴堂 ○近藤先生本達、御奉行中ハ受取候知セ有之候付
罷越

廿四日

如常、夕方友成津内案内二付、一部罷越

廿五日

呉淞楼詩文会

廿六日

夕直如常、彦四郎日療治ニ出府、落馬痛所有之、逗留養生

廿七日

如常、彦四郎案駄迎ニ而帰

廿八日

如常、大塚七右衛門案内

廿九日

如常

九月朔

例休、向丁山口惣兵衛小屋失火 ○暮前夕井上久之允宅、友成・
大塚・堀内等打寄、圍棋 ○信十郎昨日夕外感

小城

鍋島加賀守

蓮池

鍋島撰津守

鹿島

鍋島熊次郎

右御末家

川窪

神代伯耆

白石

鍋島山城

久保田

村田若狭

村田小瀬

鍋島内記

右別旗親類

諫早諫早兵庫

高雄鍋島上総

多久多久長門

スロ鍋島安房

定府鍋島主水

神代鍋島弥平左衛門

深堀鍋島左馬助

宇土鍋島播磨

鍋島周防

西尾鍋島志摩

鍋島式部

右御家老

九月二日

如常

同三日

如常

同四日

如常

九月五日

詩会、片山請持(宮三郎)

同六日

講堂文会休

同七日

當番、平常之通

同八日

夕番、並之通

同九日

佳節、塾中十三人・信十郎相連、牟礼原茸取 ○柏木文右衛門教授
局詰被 仰付、助教之勤稜當分相勤候様、愛敬四郎次儀御物頭列二
被 仰付、時習館訓導被 仰付之

同十日

並之通、尤講堂無人二付、詩会江ハ不罷越 ○佐久間角助江白金詰
之舊知之面々、高田十兵衛・国友式右衛門・松野七左衛門・
宗多兵衛・船津三右衛門・堀内久左衛門打寄、夜話二付、罷越

同十一日

如常

同十二日

並

同十三日

夕番 ○今晚近藤先生御死去、壽七十九、吊儀罷越

同十四日

並、近藤家夜伽

十五日

休、淡泉先生夕七ツ時出棺、萬日山ニ送葬、皆々罷越

○小太郎〔鞆村地〕

謙太〔高山〕出府、夜ニ入墓拜、拙宅之様來宿、翌朝引取

十六日

夕番、愛敬四郎次、今日ヨリ出勤〔鞆宿頭〕

十七日

詩会、片山受持〔宮三郎〕、如常

十八日

平常

十九日

詩会如常

廿日

二丸 御二方様、四ツ時之御供揃ニ而講堂江被為入、出懸、訓導講

尺一座被成御聞候ニ付、自分、君子〔論語一学而篇〕不重則不威章ヲ講 ○

高橋弥四郎下着ニ付、午後信十郎召連、大久保小屋迄出迎〔鞆村地〕

廿一日

如並、夕方高橋方江參ル〔弥四郎〕

廿二日

並

廿三日

並

廿四日

並、徳永礼八〔鞆村地志の志〕、役方数十年相勤、稜々功績有之、獨礼被 仰付、此

夜止宿

廿五日

詩文会延

廿六日

夕番、並

廿七日

並

廿八日

並、夕方愛敬〔時習道尊〕四郎次宅初集會 ○橋口彦助〔藤原季七〕下國、御當地罷通り、今
晚湊屋次左衛門江止宿仕候段為知越候二付、集会后分罷越、五ヶ年
振江戸諸友之事とも承候

廿九日

郊外詩文會、今日相催、尤代〔權内〕加々山講藝齋會讀後清水寺江罷越、詩
会后〔文右衛門〕柏木・加々山・片山〔宮三郎〕同道、名和桂之助を尋

晦日

並

十月朔日〔嘉永五年〕

終日不他行 ○徳永礼八〔譚村妹寿忠の夫〕初御礼、平山貞五郎 御目見 ○水津参〔飛太郎〕
り、教局内話之筋申聞

二日

並、夕番 ○塩谷甲藏内を喪候儀、安井〔息軒〕分先日申越、二人江状仕出
ス、橋口頼之状二封、高輪之方ハ上村江頼遣ス〔後次郎〕

三日

並

四日

並

五日

當月詩文會、宅受持、片山至〔宮三郎〕、加々山ハ愛敬引入二付、夕番〔權内〕

六日

講堂文會、如常

七日

夕番繰替

八日

五ツ半時御供揃二而時習館江被為 入、定日之講釈後、諸生臨講二
座被遊 御聽、定日講釈ハ手前点前二候得共、先達而 御入之節相
勤候二付、加々山〔權内〕振替、諸生ハ平川貞四郎・生駒新太郎臨時 ○今
日繰付之節、御使番懸合之儀有之

九日

常之通

十日

詩會宅請持、古閑東作講堂御用之御達 ○是日亥猪

十一日

常

文會、宅請持 ○近藤先生三十五日佛事案内有之候二付、夕方罷越〔美助〕

十二日

常、長府何ノ九郎右衛門來ル

十八日

直講 ○徳太郎出府、止宿〔徳村忠〕

十三日

直講、講堂御用草野平蔵〔門生〕・古閑東作在其中 ○沢村宮門、高瀬町御奉行被 仰付二付、為欲罷越

十九日

講堂詩会、如常、徳太郎參ル、明日帰候由

十四日

妙解寺参詣、出勤如常 ○町野玄肅〔医師〕、来春江戸被 仰付候二付罷越、平山貞五郎出府

天甚寒、東山見雪

廿一日

如常

十五日

在宿 ○講堂御用之中、浅井新九郎〔時節句流師〕・上野武源太、岐部弥三左衛門〔弥美六門生〕嫡子同道二返礼、共二欲二罷越 ○小山門喜殿御用人被 仰付候二付、欲二罷越

廿二日

如常、講藝斎助番 ○宇土福永平助、書生二人同道參ル

十六日

常

如常

廿三日

廿四日

如常 ○伊東大作、野尻江為郷導引越

十七日

廿五日

郊外詩文會、春松閣集、同役申談、早引仕、四ッ比〔頼十郎〕分菊池江罷越、
信兒政吉召連先ニ参り居、小池ニ而追付、日暮旧園ニ着、兄弟之内
徳太郎計参合不申候

廿六日

在旧園〔静野〕拜墓、城野充通贈所書正氣歌・聖經序四枚

廿七日

在旧園

廿八日

信十郎相滞居、自分已打立、七ッ比帰着、直ニ篠原巳三郎宅江罷
越、同役中打寄、但巳三郎講堂世話役被仰付而之初嘶也〔篠原〕

廿九日

如常

十一月朔日〔嘉永五年〕

在宿、塾生文会 ○政吉菊江遣ス

同二日

如並出勤 ○政吉菊池〔九郎〕分帰ル

同三日

同断、三苦惣左衛門・鎌田左内、各歛ニ罷越

同四日

平常

同五日

詩会、加々山宅受持、助番ニ付出席、帰り懸、友成津内同道、
清成武右衛門江尋ル〔頼内〕
〔八十郎子、嘉永三年相繼〕

同六日

講堂文会、如常

同七日

山口先生老母死去 ○當番〔九郎〕

同八日

政吉菊池江遣ス ○溝口殿御家老、備前殿御中老、市郎兵衛殿隠居
〔藏人〕
〔小笠原〕
〔存正〕
〔相成力〕

同九日

政吉菊池分帰ル、山口老母送葬〔九郎〕

同十日

詩会、加々山宅持、助番 ○夜井上宅二而圍棋

同十八日

平常 ○溝口武啓太名乗吟味二沼川参る

同十一日

夜大城方招カレ参る、吉田美濃列等十餘人酒燕也、信十郎帰ル

同十九日

右同

同十二日

同廿日

同十三日

同廿一日

同十四日

同廿二日

御寺参拝

明日御入之段御達

同十五日

同廿三日

在宿、岡松辰吾、居寮被仰付出府 ○町野娘縁組之事二付、呼

五ツ半時ニ御供揃ニ而時習館江 御入、定日説経片山相勤畢、諸生

二遣ス

臨時説経二座被遊 御聴、国友半右衛門・松原傳次罷出申候

同十六日

同廿四日

夕番

同廿五日

同十七日

文会、加々山受持

西岸寺詩文会 ○おつる紐解社参為仕候、且例年之通塾生江朝膳振舞、夕方高橋・町野・水津・北野等招

同廿六日

夕番

同廿七日

並

同廿八日

同、集會受持、築瀨〔備前〕・加々山〔備内〕・片山〔宮三郎〕・大塚〔七百前門〕・平川・篠原

同廿九日

同、小太郎、近藤市之允〔室助〕嘉永五年跡目相殿為歛、高山謙太同道出府、止宿

同晦

同、小太郎〔高山〕・謙太止宿

十一月朔

小太郎〔備前〕帰郷 ○右田才助〔大組付〕嘉永五年相殿〔百五十五〕養父吊儀、早川十郎兵衛〔奉行國役〕・小山門喜〔奉行〕

殿〔中老〕宇右衛門〕・沢村衛士殿寒見舞、大河原栄馬〔儀右衛門〕句読語役乙家督歛、下津殿〔久馬〕隱宅〔九郎右衛門〕・平野殿〔長岡〕・

監物殿〔長岡〕・蔵人殿〔小笠原〕・備前殿〔奉行〕・佐渡殿〔有吉〕・頼母殿〔忠右衛門〕寒見舞、愛敬四郎次〔時節句読語〕病氣見

舞、佐田吉左衛門殿〔奉行〕・真野源之助殿〔奉行〕寒見舞、片岡〔忠右衛門〕・水津〔熊太郎〕・高橋〔弥四郎〕、各打

廻り

二日

並、○講堂調事有之、昼食持出

三日

並、丑三郎出府 ○七ツ過〔熊太郎〕水津同道、稻津久兵衛〔三番組頭免隠〕殿江見舞

四日

並、丑三郎〔備前〕帰 ○昨今共二調方有之候

五日

詩会片山受持、愛敬〔四郎次〕引入講堂無人二付、手前不罷越

六日

文会休、調事有之、夕方引取

七日

並

八日

夕番

九日

並

十日

講堂無人二付、詩会江不罷越

十八日

並之通

十一日

出懸處々寒見舞、並詰

十九日

講堂例年之通調方、是日寒甚

十二日

並

廿日

右同様、出勤今日迄

十三日

夕番 (時習館調憑) 愛敬四郎次永々病氣之處、養生不相叶、今七ツ半過死去

廿一日

在宿

十四日

愛敬四郎次吊儀、(鞆村弟) 德太郎出府

廿二日

同

十五日

在宿、(四郎次) 愛敬葬式、於古町阿弥陀寺宮之

廿三日

同、御寺參拜

十六日

常之通

廿四日

同、餅搗 ○仕舞惣出、諸達物相濟

十七日

右同、尤文會江ハ講堂無人二付不罷越

廿五日

同

廿六日

同

廿七日

同

廿八日

朝四ツ比男子出生〔實二思〕

廿九日

同、私塾越年生、岡部楨蔵〔島原藩医生〕・早田栄橘〔佐賀藩家老鶴内記家系〕・犬塚孫一郎〔丹波物庄信之助陸〕・成田梶郎〔歩段〕・辰次郎

〔附記〕本誌掲載の「史料翻刻 木下韓村日記」は、これまで早稲田大学エクステンションセンター講師雲藤等、靖国神社靖国偕行文庫助勤片岡浩毅両君の積極的な協力を得て来ているが、両君もそれぞれ自立した研究者に成長したので、新たに早稲田大学社会科学研究院生山口友樹君も加えて、「木下韓村日記研究会（代表 島善高）」の名で公表することとした。